

港区立三田中学校

令和 5 年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成するために、生涯にわたり社会生活の中で活用できる「知識・技能」、場面に応じて適切に伝え合い、深く考え、想像する「思考力・判断力・表現力」、そして「主体的な学び」の起動力となり得る言語感覚を豊かにすることを目指す。	日常の学習や定期考査においては、課題に対して意欲的に取り組み、成果を出す生徒が多い。しかし、全国学力調査の結果を分析すると、「語句の意味を適切に理解して活用する力」の不十分な生徒が目立つことがわかった。言葉の特徴や使い方に関する学習を各単元の中で増やしていく。一方、高い正答率を示した記述式の問題や自分の意見を書く問題、古文に関しては、引き続きレベルアップを図るとともに、そこで語句の習得も意識させたい。	「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、各単元において、他者と対話しながら多様な「見方・考え方」に触れ、自身の考えを広げたり、深めたりする過程を大事にしたい。「対話の必然性」を生む授業展開を工夫する。また、自分の考えや思い、また、それらの変容を「書くこと」を通して気づかせる場面も多く取り入れる。その際に、どのような言葉で表現するか、言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるように促しつつ、言語活動の充実を図る。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	活用できる「知識・技能」の力の向上、課題等に自ら取り組み、深く考えそれを表現する力を向上させる。自己を振り返り、次につなげる「主体的な学び」の実現を図る。	定期テストの点数が高い生徒と低い生徒の二極化が顕著な課題だといえる。3分野を総合的に見ると、全体的に歴史を苦手とする生徒が多い。史料の読み取りや重要語句を覚えることを苦手としている傾向である。世の中への関心事は高く時事問題は広く興味がある。	ワークシートや課題学習、また、探求学習に取り組んでいく。そのために、年間計画に基づく単元学習計画の見通しを深め、生徒自身が手順を理解しつつ、学習目的をもって授業に臨めるようにする。また、視覚教材を活用し、より生徒に分かりやすい指導の工夫、理解の定着を育めるように授業を展開していく。

数学	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	基礎・基本である「知識・技能」の定着を図る。その上で、実生活に生かすことのできる「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。そのために、自ら課題を粘り強く取り組むための「主体的に学習する態度」を育てる。	全国学力・学力状況調査や定期考査の結果において、点数の二極化が見られることが課題である。「知識・技能」の定着に課題がみられ、基礎的な計算も苦手になっている生徒が多いのが現状である。また、「思考力・判断力・表現力」に関する問題はテストで空欄になることも多いので、粘り強く考えさせる力を身に付けさせる必要がある。	基礎・基本である「知識・技能」の定着を図るために、計算プリントを配布し、反復練習をさせ積み残しがないように取り組ませていく。また、実生活に関連した課題解決学習や興味をもてる教材づくりに努め、「主体的に学習する態度」を育て、「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせる。単元の最後に単元テストを実施し、定着度の確認を行い、定着度の低い問題を中心に復習をする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	「知識・技能」を確実に定着させ「思考力・判断力・表現力」の高いレベルでの育成をめざす。その過程の中で科学に対する興味・関心を引き出し、学んだことを生かして主体的に生活していく能力を育む。	学習に対する興味・関心は全体的に高い。授業に対する取組も前向きであるが、知識・技能の習得にはばらつきもある。実験の考察を苦手としている生徒もいる。個人でまとめるときも、手順を考え、適切な語句を用い、学習を振り返ることができる能力が必要である。	全単元において、主体的・対話的学びである観察・実験など体験的な活動の機会を多くつくり、目的に基づいてその結果を丁寧に考察させる。タブレットを有効に活用し、情報を他と共有させることにより、新たな発見や問題点を見い出させ、今後のより良い生活を考えさせる。視聴覚教材等も活用し、知識の定着や発展的な学習へと導く。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	「知識・技能」の確実な習得とともに、「思考力・判断力・表現力」の育成を様々な体験活動を通して目指し、「主体的に取り組む態度」を育てる。	コロナ禍により歌唱の体験活動が不足し、技能の確実な習得にまで至っていない生徒もいる。少しずつ自信をもたせながら、知識とともに技能も確実に習得させていきたい。また、音楽を構造的にとらえ鑑賞したり、自ら工夫して表現したりする能力も今後一層育てていく必要がある。	各分野を関連させながら音楽の諸要素の理解を深め、構造的に音楽をとらえ表現・鑑賞できるよう、生徒の資質・能力の育成を目指す。また、合唱コンクールなどの行事と連携しながら、発表する場をもち、技能の向上を目指す。生の演奏を聴く機会を設定し多様な音楽に触れる機会をもつなどして、音楽への興味関心を高めていく。また、活動内容に合わせてタブレットを活用していく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	課題を通して、「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力」を身に付け、心豊かな生活を創造していく姿勢を育む。	作品制作への取組については、全体的に積極的であるが、知識の習得がまだ十分とは言えず、それにともなって、技能において満足いく結果とならない生徒も見受けられる。成果を実感できるよう、思考力の一助となる基本的な知識を習得させ、創意工夫する能力を育てることが必要である。	各課題の前後に、アイデアスケッチと計画、コメントや振り返りを設け、作品についてより詳しく考察させる。また、分かりやすい具体例を提示し、各項目の基本的な用語、制作方法を定期的に確認する。タブレット等を用い、多様な芸術作品や文化的な建築物等を鑑賞する機会を増やすことで、美術文化や生活との関わりについて考え、自身に生かそうとする姿勢を育む。

保健体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	運動を通して「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力」の資質・能力の育成に重点を置く。	運動経験の二極化がみられ、基礎基本の動きを理解できていない生徒もいる。また、自分の動きを言葉で表現し、相手に伝えていく力が必要である。	運動の導入部分を工夫し、基礎となる動きを取り入れながら技や目標の動きの習得を目指す。学習カードにて動きの表現の仕方を身に付けられるようにする。また、グループ活動で互いに言葉を掛け合う中で考える時間をつくりながら、運動を実施できるようにする。

技術・家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	ものづくり活動を通して知識・技能を高めつつ、学んだことを日常生活に活用できる思考力等の育成を目指す。また、情報技術の活用とともに、情報リテラシーの伸長を目指す。	定期考査において、全学年を通して得点率は高い。一方で、ものづくり活動における作業の説明や、その作業が必要な理由を問う問題では、記述ができない生徒が多い。また製作を行うのではなく、その理由について自身で説明できるように思考を促しながら授業を行う。	思考力を伸ばすために、生徒同士で意見共有したり、考えを発表したりする時間などを設ける。ものづくり活動は、事前に終了の時期と製作工程を示し、生徒が自ら見通しをもって製作を進められるようにする。完成後は、振り返りの時間も含め、成果を発表する場を設定する。学習活動にタブレットやPCなどを使用する場面を積極的に取り入れる。

外国語(英語・国際)	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	語彙や文法、表現などを定着させ、正確に英文を話したり書いたりする能力と、まとまりのある英文を聞いたり読んだりする能力の育成を目指す。	全国学力・学習状況調査において、「話すこと」と「書くこと」の領域では、全国や都の平均正答率と比較すると上回っているものの、他の領域と比較すると正答率が低い。既習事項を知識として身に付けるだけではなく、生徒が目的・場面・状況に応じて実際に活用する機会が必要である。	生徒が英語を活用することができるように、授業の導入として短い会話練習を行い、目的や場面、状況などに応じた言語活動を設定する。また、簡単な語句や文を用いて表現する場を繰り返し設定する。既習事項を繰り返し活用したり振り返ったりといった指導の工夫を図り、少人数体制を生かしたきめ細かな指導を行うことで基礎の定着を目指す。4技能統合型の授業を計画・展開することで、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の総合的な育成を目指す。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	自他を尊重し共感し合い、責任感と自主性をもって行動できる力、そこからよりよい社会の実現へと見通せる力。	生徒一人ひとりがしっかりと課題に向き合い、対話や議論などを行いながら自らの考えを深めていくことが課題である。また、「考え 議論する道徳」を意識させた授業づくりを全教員が意識し展開する必要がある。	年間指導計画に沿い、積極的にICTの活用も取り入れながら、資質・能力の育成を進める。指導内容や指導手順の共通理解のもとに、生徒の変容や成長した側面を積極的に評価し、その成果を踏まえた具体的な指導内容の研究も行う。また、指導体制も工夫しながら行い、人権尊重の精神を養わせる。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	社会的能力(「社会の中で自己を生かす能力」、「社会に貢献する能力」、「人間関係を形成させる能力」)の育成を目標とし、社会性をもって生きていくために必要な能力を涵養する。	「自分のよいところがある」、「将来の夢や目標をもっている」と感じている生徒が少ない。学級活動や学校行事等、学校生活のあらゆる場面で、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導を行う必要がある。	左記の能力の育成について、学級活動や委員会活動、生徒会活動、学校行事など学校における様々な活動の中で取り組む。他者と協働して成果を分かち合うこと、周囲への寛容な態度と心情、公共のものを尊重する心情の育成などを、これらの活動を通して涵養することに努める。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	タブレットを有効利用しての情報収集やその活用、課題解決、コミュニケーション、自己表現の各能力を高める。自ら考え、主体的に行動できる自立した生徒の育成を目指す。	生徒一人ひとりが課題を理解し取り組むことを基本とし、個々のレベルで意欲的に向き合うことが課題である。その上で他と情報を共有し、高いレベルで課題を深めさせたい。	日々の学校生活や、様々な学校行事を軸にした取組の中で、課題探求型学習による情報収集やまとめ、発表による自己表現力を育成する。コミュニケーショントレーニングも併せて行う。タブレットを有効に活用できるようにさせる。ポートフォリオ評価(活動記録等のファイリング)を行う。活用資料を随時ファイリングし、学校全体で共有し活用する。